

オープンキャンパスのご案内

山大音研では来たる8月9日(日)午後1時から4時まで、教育学部音楽棟にてオープンキャンパス選修企画を開催します。予定している内容は次のとおりです。

◎カリキュラム説明

山大音研は、小学校や中学校・高校で音楽を専門として教える教師を育成しています。

オープンキャンパスでは、大学4年間で習得することや授業の様子について映像を交えながら詳しく説明し、みなさんが疑問に思っていることにわかりやすくお答えします。



(教育実習前の模擬授業にて)

たとえば……

- ・音楽教師に必要とされる基礎・基本はどのようにして身につけるのか。
- ・教育実習(=初めての教師体験)に向けてどのような学習をするのか。
- ・教員として身につけるべき、指導実践における専門性はどのように磨かれるのか。
- ・ここ数年の卒業後の進路はどうなっているのか。

——などなど

◎公開レッスン(声楽・ピアノ)

山大音研では、それぞれの学生が専門とする音楽の実技をより高度なものにするために、実技レッスンにも力を入れています。オープンキャンパスでは、公開レッスンとして、ふだんどのようなレッスンをおこなっているかを見ていただけます。公開レッスンのあとには演奏の発表もあります。

歌曲では詩が歌われます。歌詩に与えられた旋律を表現するためには、ただ音程をとるだけではなく、言葉の抑揚、指示されているフォルテやピアノ、クレッシェンド等、声の可能性を最大限に引き出せるようテクニックを学ぶ必要があります。

公開レッスンではイタリア古典歌曲を取り上げ、歌うための基本を見ていただきたいと思います。イタリア古典歌曲の美しさは、詩の内容や様式感の表現に上記のテクニックを駆使するだけではなく、感情におぼれることなく清潔な声(ビブラートのあまりつかないまっすぐな声)でシンプルに旋律を表現する歌い方にも表われています。

学生と教員は、このように楽曲が要求するさまざまな表現に応えられるよう、必要な声とテクニックを日々探求しています。レッスンでの積み重ねの中で学生は試行錯誤を繰り返し、声を鍛えて、表現に必要なテクニックを身につけながら自分の中に引き出しを増やしていきます。そうした引き出しが教員となった時に教育現場で活かされていきます。(文責：林満理子)





「楽譜を読む」ということ、これは単に、音、リズム、強弱、アーティキュレーションなど、譜面上に書かれてあることを見逃さずに読み取るだけではありません。そこから作曲者が何を伝えたいのか、或いは何を感じ取ってほしいのかということを読み取るのが重要で、それを音で表現していくことが「演奏」につながります。

公開レッスンでは、ドビュッシーの初期の作品を採り上げます。当時の美学が反映されたその色彩感覚は、20世紀への芸術の扉を開く礎となっています。それを演奏表現につなげるためには、柔軟な手首・腕など身体の使い方は勿論のこと、息遣いにも注意を払い、もう一度基礎を見つめ直すことが大切です。その上で、奏でた音を身体で聴く——こうした地道な努力が不可欠なのです。(文責：友清祐子)

◎演奏発表

二重唱、ピアノ独奏、ピアノ連弾

◎合唱体験

山大音研の教員の指導のもとオープンキャンパスに参加するみなさん全員で合唱を体験します。

◎座談会

少人数のグループに分かれて、在学生とのフリートークを予定しています。打ち解けた雰囲気の中かで、学習環境や入試への準備、あるいは大学生活の様子など、どんな質問にもお答えします。



みなさんのお越しをお待ちしています！

お問い合わせは下記メールアドレス（斎藤）までお願いいたします。

mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp

「山大音研」で検索すると、当選修のHPをご覧いただけます。

なお、悪天候などによるオープンキャンパス中止や延期に関する情報は大学HPをごらんください。